

令和2年(2020年)度 GSI キャラバン 研究プロジェクト

採択課題：中東国際政治における主要地域大国と域外大国の関係をめぐる実地調査と対話

研究代表者：池内恵（先端科学技術研究センター・教授）

## 2020年度研究計画

本プロジェクトでは、中東・ロシア・中国・西欧に関する研究者が協力し、中東の主要地域大国の主要大学を訪問し、そこに所属する有力な研究者とラウンドテーブルやシンポジウム等を開催して知見を交換し、成果の刊行の共同作業を行なう。訪問先はトルコ・イスラエル・エジプトとする。

GISの枠組みの中で、総合文化研究科の東アジア研究者と西欧研究者、先端研の中東研究者とロシア安全保障の研究者が知見を提供し、トルコ・アンカラのバシュケント大学、イスラエルのテルアビブ大学およびエルサレム・ヘブライ大学、エジプトのカイロ・アメリカン大学との関係を深めて行く。

バシュケント大学とは2020年9月にイスタンブール予定される中東の安全保障をめぐる国際会議での共同事業によって関係構築・意見交換の場を設け、テルアビブ大とは共に2020年度10月に中東地域情勢の分析と、中東と中国をはじめとした東アジアの戦略的な関係をめぐって共同ラウンドテーブルを開催する予定である。

本プロジェクトは、先端研の特任助教や総合文化研究科・GISの特任研究員といった若手研究者を積極的に登用し、総合文化研究科や教養学部教養学科後期課程での池内教授・川島教授の演習授業等での指導学生などからも関与する者を募り、研究上の次世代養成と大学院・学部でのグローバル化教育の双方に好影響や相乗効果をもたらす取り組みである。

ただし、新型コロナウイルス問題による渡航規制のため、海外での国際会議への参加やラウンドテーブルの開催、あるいは研究者の海外からの招聘が実施できない状況が年度の大半にわたって続くことも想定できる。そのため、バシュケント大学やテルアビブ大学、エルサレム・ヘブライ大学等の研究者とのオンラインでの研究グループを組織し、若手研究者を中心に、大学間のヴァーチャルな交流・対話のネットワークを形成していくことで、渡航制限が継続する間にもプロジェクトの事実上の開始と進展を図る。